



保安

昭和三十三年の三池大災害を契機にして大幅な保安規則の改正が行われ、保安の監督業務を会社だけにまかせず、労働者側からも保安に対する取り組みをいっそう強化させるという目的で四十年一月から保安監督員補佐員制度が施行されました。

危険に對峙する意識を —補佐員の見た保安—

保安監督員補佐員 村上 和行

三池労組からも組織代表として一人、会社の保安機構のなかで、『生命を守るために』に取り組みることになりました。

五十一年一月から前年退職された立山補佐員の後任として、私探炭工だった私が就任することになったわけですが。

三池労組からただ一人の補佐員です。三池三山を一月ごと巡回しなければならず、変化の激しい坑内を継続して点検指導する側にも組合にもあり、重大災害防

たので補佐員会議後、カッターの設計図をもらい、三池でも取り入れるように提出しました。

三池で実験はしたが、水が悪くノズルが詰るので使用しないという返事でした。真剣に保安を優先させる意志があるなら、ノズルが詰るまで試行錯誤してはじめて保安の確立に近づいていこうとしよう。

術的に可能だと思えます。働く者の側に坑内で炭じんが舞っているのはあたりまえだと思われ、これを許している面があまりないだろうか。このような例は気をつけてみればいくらでも見つけ出すことができると思います。

私たちが長い間たかいたのなかから保安の確立を重視し、組織をあげて保安意識の向上に努力しています。『保安だより』もその一翼を担っています。

そのお客さんを通すために、約一週間の準備期間をこらして上層三十五番御No1BCから西八片にいたる坑道には、いつか入れないような人力を投入。連日、BC下の掘出し(硬処埋)、炭積み、ガラクダ出し、坑道整理が行なわれ、岩粉も念入りに散布された。

入道のNo1BC坑道(このBC九十九号、六月九日発行から)坑道は、人道のため使用禁止の

ことができないという不満があるものの、三池全山の保安状況を把握できるといふ利点もあります。

また、福岡鉱山保安監督員が主催する補佐員会議で、友山の高島炭じん爆発、坑内火災、今度の有明炭坑内火災と重大災害を次々

原則で、池島鉱では現実に実施されている。カッタードラムから切

面入水を噴き出す方法をどう安易に考えていることが、会社が保安を真剣に取り組もうとしない要因になっているように思えます。

さる五月三十日、日本石炭協会の藤森正男太平洋炭鉱会長を団長とする石炭協会の調査団が四山鉱上層三十五番御関係の西八片私を視察に来山。

石炭協会のお客さんが来山した当日は、電機、機械、開発、自走車のそれぞれの第一番の労働者の必要な人員を早出までさせて、坑道の整備やケーブルの

入りに配布された。

「二分金職場新聞」きずな

二七行革粉砕の 諸行動に参加

六月六日、労働福祉会館で「平和のちのちを破壊する二七行革粉砕」交流会が開かれ、国調反対、民医連から健保改善反対

労から、ローカル線廃止反対、国などの報告があり、緊急かつ重要

な段階であり、急速に運動を広めていくことを確認しました。

また、六月八日には国鉄分割、民営化反対、公共交通確保九州キャラバン行動があり、大牟田市役所

前での集会のおと高までバイクデモ、そして集会が開かれましたが、それぞれの集会に三池労組からも参加しました。



竹内隆雄さん

◆仲間たちは、彼を「タケさん」と呼ぶ。タケさんがテニスをはじめたのは中学生の頃。軟式だった。運動神経の豊かな彼はメキシコ腕をあげ、十六歳(鉱山学校在学中)のとき県代表として全国大会に出場した。

◆タケさん一家はテニス一家である。三年前、家族で阿蘇のテニス・ペンションに遊んだときは美に楽しかったと目を細める。

二人の男の子は、高校・中学



竹内隆雄さんは、大牟田市大字今山1235の7の自宅で、奥さんの節子さんと長男隆志さん(高3)、二男博記さん(中3)の4人暮らし。

指名解雇と闘う 仲間へ物販協力を 沖電気

指名解雇に抗議して五年間もたたかいて続けている沖電気の争議

◆タケさんは、ほんの一時とタケリながら楽しんでやっています。夫人はママさんバレーに精を出し、勤務先ではバトミントン、ソフトボールと多彩なスポーツママである。

◆タケさんは、ほんの一時とタケリながら楽しんでやっています。夫人はママさんバレーに精を出し、勤務先ではバトミントン、ソフトボールと多彩なスポーツママである。

お客さん用に 人道にバランス

「舟」を特別許可で運転した

は、わずかの流水だが、岩粉でベタベタになるため、バランス五四山鉱上層三十五番御関係の西八片私を視察に来山。

石炭協会のお客さんが来山した当日は、電機、機械、開発、自走車のそれぞれの第一番の労働者の必要な人員を早出までさせて、坑道の整備やケーブルの

あくなき賃金抑制

日経連会長あいさつ

「いつの日か賃金抑制を追求する。ものわりの悪い経済団体に對して、労働組合がものわりよく対応してどうなるのか、という懸念や不満を引き起こす大槻会長あいさつだった。

日経連(大槻文平会長)は五月十六日、東京・日比谷の東京会館で第三十七回定期総会を開いた。総会では例年、大槻会長あいさつで、経営側の春闘総括といえるものが述べられるが、今年には「残念ながら賃金決定の正常化は足踏みだった」としながらも、「足踏みだから決して悪化したわけではない」「いわば微調整の域に達する賃金決定の正常化をいよいよ実践に移していかなければならない」と強調し、経営側の自信とあへることなき賃金抑制姿勢を示した。

「いつの日か賃金抑制を追求する。ものわりの悪い経済団体に對して、労働組合がものわりよく対応してどうなるのか、という懸念や不満を引き起こす大槻会長あいさつだった。」